



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2015/09/24(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 171

## 『一寸一言』 2015 京都インターハイを終えて

札幌山の手高校  
上島 正光

今年は、桜花学園を中心に昭和学院、東海大会で桜花学園を破った岐阜女子が上位の中心で展開されるだろうと考えられていた。

今年は、昨年のウインターカップ大会時のスタートメンバーから全て入れ替わっており、試合の度にスタートメンバーが固定できずにいた。

安定したチームの条件、チャンスメイクとなり得るポイントガード、ゴール下のポイントとDFの要となるゴールテンダーにリバウンドとDF。

チームにとって最も大事なポイントガードのポジション。パス能力に優れ、チャンスメーカーとなるプレイヤーに誰をするのか、他のポジションも含めて誰をスタートメンバーとして試合に臨むのか的を絞ることができないままインターハイへ。

ブロックの組合せは、対戦するであろうと思われる、2回戦福岡大若葉、3回戦全中優勝メンバーを擁する明秀日立、準々決勝は明星学園か大阪薫英といずれのチームも強豪。今の山の手チーム状態では、いずれのチームと対戦しても勝利することは容易ならぬ組合せ。

### 試合経過

2回戦 福岡大学付属若葉

ポイントは、No 5 (176)、No 7 (175)、No 15 (176) の3Pシュートも含むオールラウンダーをどう封じるかDFが鍵。

スタートメンバー

若葉：No 4 (166)、No 5、No 7、No 11 (160)、No 15

山の手：井上 (163)、米谷 (178)、田中未 (167)、池田 (160)、栗林 (187)

第1ピリオド

両チーム、ハーフコートのマンツーマンDFでスタート。

インターセプトから井上のドライブシュートで先制。その後2点以内のシーソーゲーム。

ルーズなセーフティDFで3回もイージーシュートを決められ、1対1で簡単に得点を許し、失点が多く21-22。

第2ピリオド

インターセプトから井上の速攻シュートを決めるも直ぐに1対1で得点される。

2分過ぎからは、又セーフティの遅れから失点。さらに連続走られ連続ゴールを許す。

7:51に23-32となったところで山の手タイムアウト。

その後もセーフティの遅れから走り込まれての得点。

No5に12点、No7に10点、No15に4点と26点の失点。

日頃から、ピリオドの失点は12点以内、自チームの得点は18点以上を課題としているが、No5に18点、No7に15点、No15に12点と、3人に45点も取られ、38-48で前半を終える。

### 第3ピリオド

田中未の3連続シュートで8:00には44-50と詰め寄り、ようやく流れがきたかと思われたが、速攻時にパスミスで逆に相手に得点を許し、10点差が一向に縮めることができず、5:00には46-62この試合最大の得点差。

このピリオドも23失点と失点が多く58-71。

### 第4ピリオド

栗林のムービングポストシュートから反撃に出られるかと思われたが、連続得点され、8:30には60-75と再び15点差。

田中都、田中未の連続シュートなるも、パスミスで又も5:00には64-79。

ここで山の手タイムアウト。オールコートプレスDFを指示直後No7に決められ5:15に64-81。この試合最大の17点差とされる。

井上のインターセプトからドリブルシュート等で3:42に70-83若葉タイムアウト。

田中未の3Pシュート決まるも、最後までDFが悪く75-87の大量失点で試合終了。

## 寸評

### ○DF面

- ・1対1で簡単に、しかもヘルプ、ローテーションとチームDFが全く機能せず、又ボックスアウトの甘さからセカンドチャンスを与えることとなった。
  - ・大事な場面でのパスミスが目立ち、流れをつかめなかった。
  - ・長身者の得点力の差、山の手31点、若葉79点。
  - ・3Pシューターの池田のシュートが通常、最低でも6本以上決めるのが1本にとどまった。
  - ・プレイメイクできるガードが不在。  
と懸念していたディフェンス面とポイントガードの不在が露呈する結果となり、内容の伴わない試合内容。
- 3回戦と準々決勝全てを見たが、明秀学園日立（茨城）は全中で優勝したメンバーで、山の手に勝利した若葉との対戦でも圧倒的に111-88のスコアで勝利。  
このように、ビッグセンター不在でもプレイメイクが連続して組立てられ、合わせのプレイもスムーズに展開していて良かったと感じるチームは他にも就実（岡山）、薫英（大阪）、聖カタリナ（愛媛）、小林（宮崎）などのチーム。
- ベスト4の桜花（愛知）、明星（東京）、岐阜女子（岐阜）、昭和（千葉）の何れもビッグセンターを擁するチーム。最終的にはガードとセンターの縦のラインがしっかりしていないと、なかなか上位にはいけない。  
今年のチームは、プレイメイクできるガードと、ゴールテンダーとなり得るプレイヤーが未成熟。DFの確立と合わせて、ウインターカップ大会に向けて再度挑戦。